

1 はじめに

特別活動においては、子どもの自発的、自治的な活動を一層重視し、好ましい人間関係の醸成やよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることが求められている。本実践では、特別活動の中でも学級活動に重点を置き、取組を行った。学級活動において、自主的、実践的な態度を育てるには、子どもが興味をもつ活動の中で、問題点に気づき、問題を解決していく経験を積むことが必要であると考えた。この経験を積み重ねることによって、子どもは、学級内における集団の一員としての所属感、問題解決能力などを身に付けることができると考えられる。以下、学級で取り組んだ事例の一部を挙げる。

2 実践事例

(1) よりよい学級づくりに向けた話し合い

学年末のゴールを明確にし、各学期末に学級の反省点を出し合った。どの程度達成しているのか数値化し、課題を明確にすることで意識付けを図った。

(2) 子どもたち主体の学級レク

話し合いを通して、自己決定する場を大切にいった。グループごとに企画書を作成し、学級レクを提案させた。反対意見を予想したり、折り合いのつけ方を考えたりしながら進めることができた。

(3) 行事における役割づくり (宿泊学習)

例えば、宿泊学習においては、実行委員とキャンプファイヤー係を設定した。従前通りの活動にとらわれず、児童自身が活動の内容を考えた。委員は企画書を作成し、合意形成を図りながら進めた。

(4) SGEの取り組み

人間関係づくりの一環として、SGEを定期的に取り入れた。交流を通して、友達の意外な一面を見つけたり、友達と関わる楽しさを感じたりする機会になった。

3 成果と課題 (○…成果, ●…課題)

- 子ども同士で意見を述べ合い、目的を達成するために試行錯誤を繰り返す活動を意図的に取り入れたことで、人間関係を深めたり、見通しをもって活動したりする機会となった。
- 活動をするための時間の確保や全ての子どもに力を付けるために更に工夫する必要性がある。